



五小だより

学年からのお知らせは、スクールメールで随時お知らせします。
各学年の学習などの活動の様子は、五小ブログをご覧ください。

1月号

令和8年1月8日

五小ブログ 国分寺市立第五小学校

042-322-0045

校長 斎藤 晃



本当にあった話

校長 斎藤 晃

令和8年1月、60年ぶりの丙午の年。明けましておめでとうございます。今年は比較的穏やかに年が明けた印象があります。保護者、地域の皆様におかれましてもよい年末年始をお過ごしされたことと存じます。お陰様で本校も冬休み中、大きな事件や事故の報告がなく、本日1月8日(木)朝、体育館において元気な子どもたちと共に令和7年度3学期の始業式を行うことができました。今年もよろしくお願ひいたします。

さて、私は年末に『戦争をやめた人たち…1914年のクリスマス休戦』(鈴木まもる 文・絵/あすなろ書房)という1冊の絵本を読みました。すでにお読みになった方もいらっしゃると思います。私はこの本について題名は知っていましたが、初めて手にして読むことができました。

あらすじ～時は1914年。第一次世界大戦が始まり12月にはドイツ軍とイギリス軍がヨーロッパで国境を挟んでそれぞれ塹壕を掘って対峙し、互いに銃の打ち合いが続いていました。戦線は膠着し、兵士たちは疲れ果てていました。ところが12月24日の夜、ドイツ軍側の塹壕から聞こえてきた「きよし このよる」をきっかけにして奇跡が起こり始めます。～

1914年の12月25日にイギリス軍とドイツ軍が戦場でサッカーをしたということは、本当にあった話だそうです。また、同じようなことは他の戦場でもいくつもあったそうです。

<以下、作者の「制作ノート」より>

この絵本の「あとがき」の絵を描いている時に、プーチン大統領のウクライナ侵攻が始まりました。まだ「戦争」を始める人間がいる現実に愕然としつつ、戦争よりも強い、人のやさしさと想像力を描きたくて絵を完成させました。

今、日本国内から目を海外へ転じてみると、世界のいたるところで戦争や紛争はまだまだ絶えません。日々報道される戦争の犠牲となった人々の悲惨なニュースには本当に心が痛みます。私はこの物語を読み終えたとき、世界平和の将来に向けて新たに夢や希望を得ることができました。また、とても温かい気持ちになり何度も読み返しました。ぜひ多くの方にご紹介したく思い、この場を借りさせていただきました。

今年、日本は終戦から81年目となります。次の節目の戦後90年を迎える令和17年、9年後の1月、今本校に通っている児童の多くは成人しています。本校でも教育を通し、将来に向かって平和を築いていく子どもたちを育てていきます。今年も本校の教育活動にご理解、ご協力、どうぞよろしくお願ひいたします。



人権教育推進を目指して

人権教育推進担当 松野 良高

人権教育は、「生きる力」を学校教育において各教科、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間のそれぞれ特質に応じ、教育活動全体を通じて推進されるものです。

本校では「**自分を大切に 友達を大切に 一人一人を大切に 国分寺を大切に**」を合言葉に人権教育を推進しています。日々の教育活動全体を通して、児童の人権に関する知識理解を高め、人権感覚を養う指導に取り組んでまいります。